

令和3年8月27日

輪之内町教育委員会
教育長 箕浦 靖男 様

外部評価員 田中 耕

令和2年度評価「輪之内町教育委員会の権限に属する事務の管理及び
執行の状況」に対する外部評価について（報告）

令和3年7月「令和2年度評価 輪之内町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況報告」（以下「第一次評価」という）及び「令和2年度学校評価に関する考察」（以下「考察資料」という）に基づくほか、すでに公開されているインターネット情報、教育要覧学校要覧などを含めて外部評価を行いましたので、その結果について下記のとおり所見をまとめて報告します。今後の教育施策の展開に活用していただければありがたいです。

記

1. はじめに

第一次評価報告書の第1章では、点検評価結果の概要として評定方法及び点検評価結果全体の概要について述べられています。また、第2章では、点検評価シートを用いて教育委員会の活動状況並びに事務事業である学校教育及び社会教育の執行状況について示されています。これらの中で、教育委員会の活動状況については「教育委員会会議等の実施状況」、「調査活動の状況等」の2項目に分けて、過去3年間の自己評価とともに「活動実績」及び「成果と課題」が示されています。また、学校教育については13領域、社会教育については7領域、合計20領域に分けて、各領域の「重点目標」及び「成果と課題」の自己評価が示されています。

したがって、外部評価についても、第一次評価報告書の記載内容の順に、また点検評価シートに示された事務事業に沿いながら外部評価員としての評価と所見を述べることにします。

2. 点検評価結果全体の概要について

第一次評価の概要として、教育委員会の活動状況については「教育委員会会議の状況」の評価結果は「順調に達成している（A）」と報告されています。教育委員会会議は輪之内町における教育を審議決定する重要会議であり、順調に推移したことは大いに評価できます。しかし、「調査活動の実施状況」の評価はコロナウイルス感染症拡大防止のためすべての活動が実施できなく「評価不能（-）」となっています。コロナ禍の中では各種行事を中止せざるを得ず、「A」～「D」による評価が出来ず「評価不能（-）」とされたのは苦渋の選択であり、やむを得ない事情によるものと評価します。次年度以降は調査活動が順調に実施でき

ることを期待します。

また、事務事業の執行状況については、「A 順調に達成しているもの」6/20 事業 (30%)、「B おおむね順調に達成しているもの」12/20 事業 (60%)、「C 達成見込みであるが課題があるもの」0/20 事業 (0%)、「D 順調でないもの」0/20 事業 (0%)、「- 評価不能」2/20 事業として報告されています。コロナ禍によって止むを得ず実施できなかった事業があるものの、「C」、「D」の評価が見受けられず、「A」あるいは「B」の評価となっていることから、教育委員会の活動や事務事業がほぼ順調に執行されていると考えます。しかし、今後は、コロナ禍が早期に収束し、すべての事業が実施可能となり、地方教育行政としての本来の役割が早期に果たせることを期待します。

3. 各事務事業ごとの点検評価シートについて

(1) 「教育委員会」の活動状況

教育委員会会議等の実施状況では、西濃地区教育長会等の内容や各学校での状況等が毎月の定例会や臨時会において報告されている。また、輪之内町教育大綱、教育基本計画、いじめ防止等のための基本指針、職場環境を悪化させる行為の防止及び対応に関する指針など、輪之内町における教育の基本的な方向付けに関する内容についても協議が行われており、活発な議論や意見交換がなされているようである。しかしながら、課題として十分な議論が尽くせず問題提起に終わっていることが挙げられている。喫緊の課題については先送りせずに、時間をかけた十分な議論を尽くし確実に解決の糸口や方向付けをするように努めていただくことが重要であります。

調査活動の状況等では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためにすべての行事が中止あるいは延期となり実施されていないのは残念なことです。このような非常な状況下であるからこそ、通常授業に代わる教育の在り方や方法を模索するためにも ICT などの代替手段を利用した相互連絡や情報交換への対応が望まれるところである。今後の ICT を利用したモデル授業の開催や教育研修会の開催とともに、これらを遠隔で視察するような場の設定に期待します。

(2) 「学校教育」について

各領域の評価が、教育の第一線で活躍されている教職員の評価に基づいていることは生の状況を反映したものであることから、非常に好感が持て貴重な結果であると考えます。しかし、評価する先生方のメンバーが毎年の異動によって変わっていることから、厳密な比較には無理があるものの、およその傾向は把握できるものと考えます。

そのなかで、「A 順調に達成しているもの」4/13 事業 (31%)、「B おおむね順調に達成しているもの」9/13 事業 (69%)、「C 達成見込みであるが課題があるもの」0/13 事業 (0%)、「D 順調でないもの」0/13 事業 (0%) となっています。したがって、全体の 1/3 が順調に達成でき、2/3 がおおむね順調に達成していることとなります。| 「C」、「D」の評価が見られないものの、「A」評価が多くを占めるような教育水準の向上や教育環境の充実に期待

します。学校教育の要を教科指導として、とりわけ、教科指導に力点を置いた教育の充実・向上に期待します。また、評点平均値の経年変化は次表のように推移し、過去4年間で最も低値となっています。わずかな数値の変動に一喜一憂するものではありませんが、徐々に低下傾向にあることが気になるところです。令和2年度はコロナに明け暮れた1年でしたが、次年度以降の評価が向上することを期待します。

年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
領域	13	13	13	13
評価平均	75.1	76.8	78.4	76.7
評定 A/B 数	3/10	4/9	4/9	0/16

令和2年度は各小中学校の校長先生や教育委員会による考察資料に示されているように、年度当初からコロナ禍によって通常授業ができず、様々な制約があった中での教育活動であったことと推察します。教職員の先生方にも多大な負担がかかり、児童生徒にも十分な教育環境が提供できなかったことはやむを得ないことと考えます。とりわけ「教科指導」領域においては、コロナ禍のなかで十分な教育の提供ができなかったことと思われます。その中でも、デジタル教科書などによって主体的な学習が出来たことは、今後の生徒の学習により導きの機会になったと思われます。生徒自らが進んで計画し、自分のペースで主体的に学ぶ姿勢を持たせることは何よりも必要であると思ひます。このようなコロナ禍による様々な制約の中で、第一線の教育に携わっておられる先生方が悩みながらも非常に苦勞されて進められたことが領域の随所に感じられます。

考察資料の中には、第一が自らの健康確保、さらにその上にお互いを思いやる心の大切さや普段の対話の重要性を学んだことが記されています。また、困難の中でこそ得られる教訓もあったと述べられています。児童生徒にとって、このような困難な試練は必ず将来の生活に役立つものと考えます。また、小中学校の校長先生の多くは必ずしも評価が高くなかったとされています。短期的に見れば十分な学業環境を提供できなかったことは残念なことですが、長い目で見ると、このコロナという経験が生徒の将来には医療を志すなど必ず何らかの形で生きてくるものと考えます。一時期の困難に悩まされることなく長期的な視野での教育に前向きに取り組んでいただけると有難いと思ひます。また、対面授業が困難な中で、むしろ ICT の活用を進めることができた。コロナ対応によって教育活動や働き方を見直すきっかけになった。児童、保護者、教職員が共通認識をもって、児童の健康確保を最重要課題として適切に対応することができたなど、コロナ禍で普段の行事や活動が困難な中でも、それを乗り越えようとする意識や態度が生まれ、人として大きく成長した1年であったとされている。小中学校における教職員の存在が児童生徒の成長や将来に及ぼす影響には計り知れないものがあります。日頃から輪之内町における学校教育の第一線で尽力されている教職員の皆様方に敬意を表するとともに、益々のご活躍を祈念するものです。

(3)「社会教育」について

昨年まで少なくとも過去2年間は全7領域において「A」評定となっていました。しかし、令和2年度の評価は、コロナ禍のために順調に達成できた領域が少なかった。感染防止のためには各種行事を実施できなかったことはやむを得ないものと考えます。コロナ禍が早期に収束し、以前のような社会教育活動が実施できることを期待します。

4. おわりに

令和2年度は終始コロナ禍によって翻弄された一年でした。したがって、感染防止対策を図るために、思うように活動が出来なかったものと思われまます。内部評価のみならず、外部評価にあたって非常に苦慮するところでした。このように混迷を極め収束先の見えない中にあっても、様々な工夫や熟慮によって貴教育委員会における事務の管理及び事務事業を執行されていることが随所に見受けられ、大変好印象を受けました。

いずれにせよ、輪之内に学んでいる児童生徒や生活している人々のレベル向上と教育の質保証・向上に資する観点から、たゆまぬ努力を重ねられ今後も内部評価を進められ特色ある町づくり、教育活動の充実に努められることを期待します。

最後に、貴委員会の活動や所掌事務内容について未経験で十分熟知していない当評価員が的外れのコメントになっていないか、あるいは過大要求な所見になっていないか危惧しながらご依頼への回答といたします。

以上